座長の言葉

座　長：池田　隆徳 先生　　東邦大学大学院医学研究科循環器内科学
座　長：髙橋　尚彦 先生　　大分大学医学部循環器内科・臨床検査診断学講座

12誘導心電図は、循環器診療における基本中の基本となるファーストラインの検査である。しかし、そこに含まれる情報量は非常に多く、熟練者であっても判読に苦慮することがある。12誘導心電図は不整脈の診断にとどまらず、循環器疾患や各種症候群の診断にも活用され、虚血性心疾患、心筋症、遺伝性不整脈の評価において欠かせない検査法となっている。

近年の植込み型デバイスの進歩により、人工ペースメーカのみならず、植込み型ループレコーダ、植込み型除細動器、心臓再同期療法などのデバイスを有する患者が増加している。循環器診療ではこのような患者を診る機会が多く、医師のみならずメディカルプロフェッショナルにも一定の判読力が求められるようになってきた。

日本不整脈心電学会では、毎年、若手医師およびメディカルプロフェッショナルを対象とした心電図アカデミー（判読セミナー）を開催している。今回は「エキスパートになるための心電図判読セミナー」と題し、この領域の専門家であるお二人の先生にご講演いただく。

足利敬一先生には「救急外来における12誘導心電図の実践的読影ー虚血性心疾患と頻脈性不整脈の鑑別ー」をテーマに幅広い解説を、河野律子先生には「植込み型デバイスの特徴と心電図所見」をテーマに詳細な解説をお願いしている。本アカデミーが参加者の知識向上と日常診療の一助となることを期待している。多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしている。

抄録

1）「救急外来における12誘導心電図の実践的読影ー虚血性心疾患と頻脈性不整脈の鑑別ー」

演　者：足利　敬一 先生　　宮崎市郡医師会病院 循環器内科

本セミナーでは、救急外来や病棟で遭遇する12誘導心電図を用いた虚血性心疾患および頻脈性不整脈の鑑別について、医師や臨床検査技師に求められる基本的、実践的視点から解説する。胸痛や動悸を訴える患者に対し、限られた時間の中で心電図から緊急性を判断する力を養うことを目的とする。虚血性心疾患では、ST上昇・低下、T波変化、異常Q波の成因と意義を整理し、急性冠症候群の早期発見につながる所見の捉え方と責任冠動脈推定の基本を確認する。加えて、経時的変化の重要性や偽陽性・鑑別すべき病態にも触れる。頻脈性不整脈については、心拍数、QRS幅、規則性、P波の有無と房室関係を系統的に評価するアプローチを提示し、上室性頻拍と心室頻拍の鑑別ポイント等を、具体例とともに紹介する。症例ベースの心電図提示を通じて、波形変化の背景にある電気生理学的機序を理解し、救急現場や病棟での迅速かつ的確な判断や対応に直結する知識の習得を目指す。

2）「植込み型デバイスの特徴と心電図所見」

演　者：河野　律子 先生　　産業医科大学医学部 不整脈先端治療学

ペースメーカは50年以上の歴史をもつ身近な治療のひとつで、国内では年間5万人もの患者さんが新たに植込み治療を受けています。最近では、小型化や電池寿命の延長に加え、遠隔モニタリングなどの便利な機能も進化しています。さらに、できるだけ自然な心臓の動きに近づける工夫がされており、患者さんの生活の質の向上にもつながっています。今ではペースメーカだけでなく、植込み型除細動器（ICD）、皮下植込み型除細動器（S-ICD）、両心室ペーシング機能付きペースメーカ（CRT）、リードレスペースメーカ、植込み型ループ式心電計（ILR）など、さまざまなデバイスが日常診療の中で活躍しています。そのため、病棟や外来で「この心電図、なんだろう…？」と感じる場面も増えてきているのではないでしょうか。デバイスが関わる心電図には、特徴的な波形が現れることがあります。一方で、少し仕組みを知っているだけで、その見え方がぐっと変わってきます。これまで全く興味がなかったあの心電図波形の解読にも、果敢にチャレンジしたくなるかもしれません。この講義では、植込み型心臓デバイスの基本と、現場でよく出会う心電図の見方を、できるだけやさしく、実践的にお伝えします。「ちょっと役立つかも」と思っていただける時間になればうれしいです。